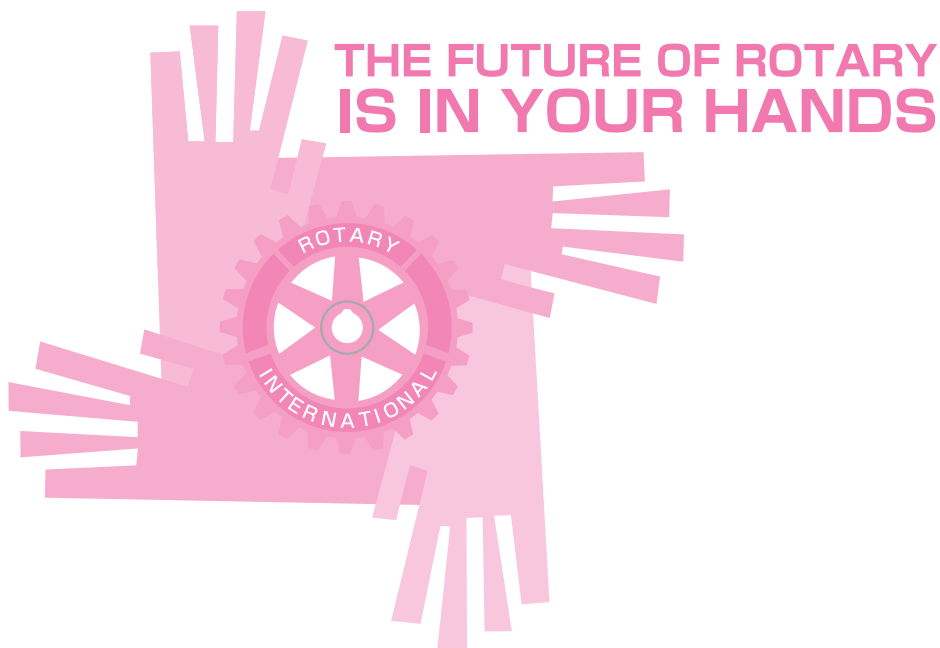


ガバナー月信

# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2009-2010

6 vol.12

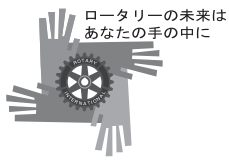


**ROTARY INTERNATIONAL  
DISTRICT 2660**

国際ロータリー第2660地区

2009～10年度ガバナー

**大谷 透**



# 2009-2010 Governor's Monthly Letter

## 目次

表2	目次
1	ガバナーメッセージ ロータリー親睦活動月間 ガバナー 大谷 透
2	PETS&地区チーム研修セミナー 次期地区代表幹事 池尻 誠
3	米山奨学生オリエンテーション 米山奨学委員会 委員 西谷 雅之
4～5	I M第6組報告 IM実行委員長 高島 凱夫
6～7	I M第8組報告 会長 宇野 能史 IM実行委員長 藤江 正謹
8	春のライラ報告 青少年活動委員会 委員長 陶 柳之介
9	米山奨学委員会・ロータリー財団
10	文庫通信 お知らせ
11	2010年度 4月度 会員数・出席報告
12	ガバナー事務所案内

国際ロータリー第2660地区  
ガバナー

## 大谷 透



いよいよ本年度の最後の月となりました。

6月は親睦活動月間 (Fellowships Month) です。ロータリーの中核をなす価値観の一つである友情 (交友関係) を大切にすべく定められた月間です。

ロータリーの綱領にある第一項の日本語訳は「知り合いを広めよう」ですが、英文では“development of acquaintance”とあります。これは単に知り合いを広めることだけではなく、交友関係を発展させる事、即ち友情を深めよという意味も含まれているのです。personalな交友関係は人生の宝です。

「Fellowships Month」が年度末の6月に当てられた理由を考えてみました。

我々はクラブで奉仕活動を行い、達成感を持って気分良く終了できた場合、会員相互の人間関係は明らかによくなります。しかし、もし奉仕作業の過程で意見の不一致から会員間に感情の縄れが生じたり、一部の会員の仕事が十分評価されずに不満が生じたならば、たとえその奉仕活動がどんなに愛に満ち、賞賛や感謝を受けたものであっても、ロータリーの評価基準からいうと成功とはいえません。ロータリーの特別な集会で、いつも「手に手つないで」を歌って終わるのも、最後に仲よく友情を大切にしようとの思いからです。

クラブ内に親友をつくるためのツールに趣味の会があります。各クラブに夫々、野球、ゴルフ、囲碁、麻雀、コーラス等の同好会があり、中には地区レベル、全国レベルで交わりを深めているも

のもあります。

このような親睦をとりもつ会のお世話は立派な奉仕の業ですからクラブ奉仕といえます。恵まれない人々を助けるという要素が入らないために奉仕という言葉を使うのに抵抗を感じる人がいるかもしれませんが、交友の絆を強めるための労力は立派な奉仕です。同好会の交わりからその中に人格的な交友関係 (親友) が育まれる事をロータリーは期待しているのです。

私の後輩に当たる医師がバングラデシュの農村で3年間の医療奉仕を終え、帰国後報告会を行いました。感動的な話もありましたが、挫折感を味わった話もありました。話した後、先輩ワーカーから厳しい質問がありました。弱い貧しい人の友になろうとすることは大変良いことです。しかし、この3年間に、あなたが苦しくてつぶれそうになった時、助けを求めたくなるような現地人の友人ができましたか。

我々の社会奉仕に於いてもこの目線は必要ですし、クラブ・ライフに於いても同様です。「Fellowship through service」はRACの標語ですが、ロータリーは100年以上にわたり奉仕を通して友情を育んできました。この成果を大切にこそ「ロータリーの未来はあなたの手の中に」という信念を共有できるのです。

次期地区代表幹事

## 池尻 誠

(八尾RC)

2010～11年度のための会長エレクト研修セミナー（PETS）と地区チーム研修セミナーを3月20日（土）に大阪国際会議場で開催しました。

従来は別日程で行われていた2つのセミナーですが、前年度に続いて今回も同日に開催しました。午前中の全体会議では松本新太郎GEが新年度のRIテーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」とともに、地区のテーマ「ロータリークラブについてもう一度考えてみませんか」を発表されました。

昼食をはさんで午後からは両部門にわかれ、PETSでは神崎茂PGが「会長の役割・責務とガ

バナナ補佐の職務」について、また地区チームに対しては横山守雄PGが「地区委員会制度」についてそれぞれご講演くださいました。

その後IM別、委員会別にバズセッションが実施され、各テーブルでは活発な意見交換が行われていました。

2010～11年度に向けた最初のセミナーで、しかもRIや地区のテーマが発表されるとあって、意気込みに満ちた参加者の皆さんの真剣な表情が印象的でした。



米山奨学委員会  
委員

## 西谷 雅之

(大阪城南RC)

「この1年間勉学に励みロータリーの精神を理解するように努め、将来は米山奨学生としての経験を生かし自国と日本のために貢献してください」との岡部ガバナー・ノミニーのご挨拶を戴き、本年も4月12日午後4時半よりヴィアール大阪にて米山奨学生オリエンテーションが開催された。

その後村橋米山奨学委員会委員長より

- ①ロータリアンの寄付がこの事業の原資である
- ②今年度も34地区で約800人が米山奨学生となった
- ③第2660地区においては新規35名+去年より5名の40名が奨学生となっておりこれは全国で第4位である

などの説明があった。その中で、特に強調された事は米山記念奨学制度の目的についてであった。「米山記念奨学制度は貧困留学生を支援するためものではありません。日本と留学生たちの母国との架け橋になる人材を育てる民間外交である」

また、奨学生に対しては「ロータリアンやカウンセラーとは1年（最長2年）の付き合いであるがそれで終わらせてはならない。この1年から始まると考えてもらいたい。そしてロータリアンとの交流・ロータリーを通じての生活で何を持って帰れるのかを良く考えて過ごして欲しい」と述べられた。

その話を補完するかのように元奨学生で顕著な活躍を遂げる5名の学友会メンバーを紹介したビデオ『心つないで、世界へ～ロータリー米山記念奨学会の学友たち』をカウンセラー・奨学生共に観賞し、武島副委員長よりパワーポイントを使った奨学生の心得・奨学生Q&Aなどの具体的な説明がなされた後、奨学生には誓約書への署名→提出という最後の手続きをとってもらい約1時間半で第1部を終了した。

隣室に移動し村橋委員長の乾杯でスタートした懇親会ではカウンセラー・奨学生共に緊張がほぐれたのか終始和やかな雰囲気であった。途中奨学生35名による自己紹介の時間を設けたが、その中で『ロータリーファミリー』や『大家族の一員』などの言葉も聞かれ第1部での説明を大多数の奨学生が理解してくれていると感じられた。

最後は磯田次年度委員長から「米山奨学生として誇りを持ち、この1年を有意義に過ごしてください」との閉会の挨拶で午後8時半に全予定を終了した。



## テーマ エイズを含む性感染症といかに向き合うか —大阪で1日に2人！—

日時：2010年4月3日（土） 13時～16時15分

場所：太閤園・ダイヤモンドホール（大阪市都島区）

参加者：大谷 透G、重里 國麿第6組AG、岡部 泰鑑GN、熊澤 忠躬PG、若林 紀男PG、神崎 茂PG、橘高 又八郎第1組AG、西垣 文雄第3組AG、鈴木 洋第4組AG、青木 禎一郎第7組AG、藤田 誠一郎第8組AG、西原 房三第3組AGE、山片 重房第4組AGE、山田 崇雄第5組AGE、田中 壽秋第7組AGE、泉 博朗第8組AGE、四宮 孝郎地区代表幹事、大阪RC、大阪東RC、大阪淀川RC、大阪天満橋RC、大阪東淀ちゃやまちRC、大阪城東RC、大阪城北RC、大阪大手前RC、大阪鶴見RC、新大阪RC、大阪中之島RC  
登録者数793名 当日出席者183名・会員家族9名・講師、パネリスト等RC以外来訪者10名  
出席者総数202名

IM 実行委員長

## 高島 凱夫

（大阪中之島RC）

近年、青少年の薬物乱用、飲酒・喫煙問題と共に、「性の逸脱」、「エイズを含む性感染症の拡大」が大きな社会問題となっています。青少年を中心としたクラミジアなどの性感染症の拡大。先進国の中で、いまだに増加し続けるHIV/AIDS感染者。とりわけ、大阪においては検査機関において2日に一人の増加を示し、この割合で言うと、未検査の人を加えると1日二人の割合で増加しているだろうと言われています。これらのことが、青少年の将来、更に人類の将来にとっていかに弊害を及ぼすかをロータリークラブにおいても検討し、感染予防・感染拡大や感染者差別防止について発信、啓発を行う時期に来ていると思われまます。RIでも、特に関心の高い社会奉仕活動の中に、環境保全、識字率の向上など六項目の中にエイズ教育が掲げられ

ています。くわえて「RCは適切であれば、公的保健機関や非政府団体と協力して、エイズ教育と予防について会員及び地域社会の理解を深めるよう推奨されている。RCは、エイズへの理解を深め同時に地域で受け入れられる範囲内で慎重かつ良識を働かせながら、エイズ教育と予防プログラムに着手または支援しなければならない」と唱っています。以上のようなことから、今回のIMのテーマを決定致しました。

基調講演は、大阪でHIV/AIDSの拠点病院（大阪では、大阪市立総合医療センターと二ヶ所）である独法 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端研究部長 HIV/AIDS先端医療センター長 白阪 琢磨先生にお話しをうかがいました。



## 【基調講演】

『大阪で拡がるHIV感染者—毎日2人?』

《講演要旨》

HIVとAIDSとの違い。

HIV感染症/エイズの昔のイメージと今のイメージとの違い。即ち、昔；HIV感染→細胞性免疫機構の進行性破壊→免疫不全→AIDS→死⇒性行為・針の回し打ち・母子感染→自業自得→致死の病、と言うイメージ。現在；HIV感染→慢性疾患→AIDS→多くは治り、社会復帰可能⇒医学的管理が可能な疾患。「不治の特別な病」から「コントロール可能な一般的な病」へと考え方が変わっている。

話をする・手をつなぐ・お風呂、プール・つり革・一緒にご飯を食べる・咳、クシャミ・ペット・蚊に刺される・キスなどでは感染しない⇒差別はダメ！

HIVの治療は、進行を阻止することが目的である。HIV細胞は長寿であるので、その寿命から考えると、服薬は60年以上必要。現在は、健康保険、身体障害者保険などが使えるが、1年間で治療費が約250万円、一生で総額約1億円と膨大な医療費が必要になる。しかし、内服薬の量は、研究の成果により10年前に比べ約1/10に減ってきている。

感染は「友達の輪」の様に拡がっていくので、感染予防（コンドーム使用）の教育を徹底することが必要である。

《結論》

- \* HIV感染症は治療の出来る慢性感染症となった。
- \* 治癒をもたらす治療法は現在ない。
- \* 服薬継続は容易ではない。
- \* 障害の治療費は高額（約1億円/人）。
- \* AIDS発症者では死亡例がある。
- \* 若者を中心にわが国でもHIVは蔓延している。

\* 地域での総合的取り組みが必要

【パネルディスカッション】『HIV/エイズ感染防止・感染者差別防止を考える』

コーディネーター；白阪 琢磨先生、パネリスト；井藤 尚之様（大阪市学校保健会副会長）、大西 雅美様（大阪府教育委員会）、北山 翔子様（HIV陽性者）、松下 あゆみ様（府立松原高等学校、るるくめいと代表）、安達 昌弘（大阪中之島RC会員）

ここでは、先ずパネリストの方々がそれぞれの立場で、感染防止・感染者差別防止に取り組んでいるか、について発表がありました。学校での健康教育の中で、出前授業（ティーム・ティーチング）を通じて性感染症、HIV/AIDSなどについて啓発を行っている（井藤氏）、Role Play（お互いに立場を入れ替え演技をしながら学ぶ）（大西氏）、年齢の近い人が様々なことを教え合う機会（Pure Education）などで感染予防（コンドームの使い方など）について伝える（松下氏）。北山氏は、自分の経験から、様々な講演会で、中途半端な知識を持っているだけで全て知っていると錯覚することの怖さを伝えている。多くの意見が、確かな知識を得ることで、感染拡大防止・差別防止が出来る、というものでした。ロータリアンの安達氏は「RIは、現在取り組んでいるポリオ撲滅事業に負けずとも劣らないHIV/AIDS撲滅事業をすべき」との意見を述べました。フロアーからは「ある年齢になったら、検査をするシステムを作ることは無理か?」「医療費が極めて高額であることをもっと知らしめたら?」「在米中に、会社ぐるみでAIDS事業に参加した経験がある」などの質問、意見がありました。今回のIMを通じて得られた様々な知識、意見などを検討し、HIV感染者がいまだに増加しつつある大阪の中にある私たち大阪中之島RCも何らかのアクションを起こすべく研究を始める所存です。



テーマ：「まとゐの心」

——団居…まとゐ、とは親しく集まることを表現する日本のことば

ホスト：大阪イブニング・ロータリークラブ

日 時：2010年4月10日（土） 13：30～15：00

場 所：大阪国際交流センター

参加クラブ：大阪阿倍野 大阪阪南 大阪平野 大阪城南 大阪咲州  
大阪住之江 大阪住吉 大阪天王寺 大阪東南 大阪イブニング

出席者数：189名（登録会員数329名）

講演者：平岩弓枝（直木賞作家）

パネルディスカッション：

テーマ：「これからのロータリーを考える」——なぜ私たちは集まっているのか——

指導者 神崎 茂（大阪西） 司会 藤江 正謹

パネリスト：畑田 豊（大阪城南） 辻川 圭乃（大阪阿倍野） 西野 博子（大阪イブニング）

会長

宇野 能史

（大阪イブニングRC）

I M実行委員長

藤江 正謹

（大阪イブニングRC）

265年の長期安定政権を維持した江戸幕府と世界一の大都市を築き、平和を保った江戸町民の知恵は、我々ロータリアンとして参考になる点が多いように思われます。また、神崎PGは、商取引は「売り手よし、買い手よし、世間よし」という近江商人の「三方よし」の理念、つまり、取引は当事者同士だけでなく、世間のためになるものでなければならないということで、それはシェルドンの「He profits most who serves best」に通

じるものであり、ロータリーの理念と密接に関係するところ、と指摘されています。

私どもが「まとゐの心」をテーマとして選んだのは、今日の閉塞感漂う社会情勢の中で「なぜ自分たちはロータリー活動に参加しているのか」を問い直そうとしたからで、前段の講演会の話者に平岩弓枝氏をお招きしようと考えたのは、神崎PGが常々「江戸時代の商人道にロータリアンの学ぶべきことが多くある。」と仰っている事を踏





まえ、江戸時代を語れる話者を尋ねた結果でした。大谷Gからも、江戸時代の商人道を学ぼうとする今回の企画に期待を込めたご挨拶文を戴きました。

直木賞作家平岩弓枝氏には、「江戸の人情、まとゐの心」という題で、ご講演をお願いしましたが、徳川幕府第11代将軍家斉の55人いた側室の子の1人、明石の大名になった殿様（斉宣（なりこと））が中山道を通って参勤交代の行列を歩いていた折、何も分からぬ4歳の子が大名行列の前を横切ったのを、掟に従って殺してしまった、という実話に基づいた事件を取り上げられました。

この事件に対し、地元の大名や奉行所の者は、その非情さと横暴な振る舞いを憎み、被害家族を哀れみ、馬鹿殿の行列が尾張の国を通過するのを禁止してしまった、という人情味あふれる話をされ、江戸幕府の御政道は杓子定規でなく、人々の「まとゐの心」を大切にし、それを壊そうとするものを排除するものであった、とお話しされました。

この後のパネル・ディスカッション（PD）では、神崎PGにPDのテーマの提案をお願いし、パネリストは、畑田 豊（大阪城南）、辻川圭乃（大阪阿倍野）、西野博子（大阪イブニング）の3名の方々にお願いしました。畑田氏は大阪商人として家訓や家業に関する提言、西野氏は教育者としての立場から、世代による価値観の変容についての提言、辻川氏は司法の立場から現代社会が抱える問題とロータリーの役割についての提言がありました。司会者は十分な発言が終る前に予定時間を超過し、会場との十分なディスカッションはできませんでしたが、話し尽きないこの話題に、「これこそがいつまでも自分たちがまとゐを続ける理由である」と結論しました。総括は藤田誠一郎GAをお願いしました。その後、閉会式に入り、次年度IMホストクラブの紹介とHCの挨拶が行なわれました。終了後の懇親会には、多数の皆さんが参加され、にぎやかな親睦の会となりました。

ご参加の皆さんのお陰で、たいへん実り多い会になったのではないかと思います。



青少年活動委員会  
委員長

陶 柳之介  
(箕面RC)

春のライラを「エコ社会を君たちの手から」(若者が考える地球環境)をテーマに大阪城北RCのホストまた大阪工業大学の協力により、大阪府立青少年海洋センターにて5月2日～4日に開催されました。

受講生98名、また大阪工業大学大学院より、プログラムアドバイザーとして10名の参加を頂き2泊3日と短いながらも充実した、また熱気のもったライラとなりました。

1日目は、朝10時から松本GEのご挨拶に始まり基調講演には石川宗孝大阪工業大学教授による「エコ社会を君たちの手から」のテーマでお話を頂き、今回のテーマの重要性が理解でき、大変勉強になったのではないかと思います。

午後には、海洋センターでのカッター練習やカレー作りを通じて、チームワークの大切さを学び、夜にはテーマにそったディスカッションを行いました。

2日目、登山コースと海岸コースに分かれて山と海的环境について調査を行い、環境を守る大切さを学んだ事と思います。夜は明日の発表にそなえて、N2法を用いて取りまとめを行いました。

3日目、グループ発表に備えてディスカッションを行い環境保護の大切さや取り組みについて発表を行いました。

閉講式では、大谷Gのご挨拶で無事に閉会いたしました。

最後に460名の登録を頂いたロータリアンの皆様、大阪城北RCの西田会長、中家実行委員長、クラブの皆様、大阪工業大学の石川先生、福岡先生、大学院生の皆様、そしてプログラムの立案、企画、運営を行ってくれたチームライラの諸君のお陰でこの素晴らしい、また充実した春のライラを実行できました事、本当にありがとうございました。

心より感謝いたします。





## 地区米山奨学委員会より

2010年3月末	全国寄付金合計額	1,126,680,139円	(前年度比13.34%減)
”	第2660地区寄付金合計額	65,596,434円	(前年度比5.93%減)
2010年3月末	全国寄付合計トップ10		
	1. 第2650地区	82,693,691円	
	2. 第2660地区	65,596,434円	
	3. 第2590地区	63,680,076円	
	4. 第2750地区	62,735,205円	
	5. 第2760地区	56,556,041円	
	6. 第2770地区	53,717,016円	
	7. 第2580地区	46,451,379円	
	8. 第2780地区	40,903,428円	
	9. 第2710地区	37,995,810円	
	10. 第2640地区	37,395,500円	

## 米山功労者

次の方たちに米山功労者の称号が贈られました。  
(2010年3月)

氏名	回数	クラブ名
東 良三	5 回目	箕 面 中 央 RC
藏田 禎夫	2 回目	箕 面 中 央 RC
野村 正勝	4 回目	箕 面 中 央 RC
羽間 平安	9 回目	大 阪 RC
早嶋 茂	2 回目	大 阪 RC
児島 章郎	1 回目	大 阪 RC
松澤 佑次	1 回目	大 阪 RC
難波 正人	1 回目	大 阪 RC
塩野 秀作	2 回目	大 阪 RC
山本 良一	3 回目	大 阪 RC
川端 康弘	4 回目	大 阪 南 RC
下川 淑子	4 回目	大 阪 住 吉 RC
片山 美智子	3 回目	高 槻 RC

## 米山功労クラブ

次のクラブに米山功労クラブの称号が贈られました。  
(2010年3月)

クラブ名	回数
箕 面 中 央 RC	16 回目
大 阪 RC	93 回目

## ロータリー財団

### ポール・ハリス・フェロー

次の方たちにポール・ハリス・フェローの称号が贈られました。(2010)

柴 雄一	大 阪 城 北 RC	3/19
御前 治	千 里 RC	3/19

### マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

次の方たちはマルチプル・ポール・ハリス・フェローです。(2010)

大橋 秀典	1 回目	東 大 阪 東 RC	3/12
酒井 俊一	1 回目	箕 面 中 央 RC	3/12
友藤 昭弘	1 回目	大 阪 平 野 RC	3/12
小浦 務	2 回目	大 阪 住 吉 RC	3/26
土井 憲一	1 回目	大 阪 天 満 橋 RC	3/12
藤井 弁次	1 回目	大 阪 天 満 橋 RC	3/12
谷本 圭二	2 回目	大 阪 天 満 橋 RC	3/12
寺井 種伯	1 回目	大 阪 天 満 橋 RC	3/12

### ベネファクター

次の方たちにベネファクターの称号が贈られました。  
(2010)

三原 幸二	大 阪 南 RC	4/15
吉田 充	吹 田 RC	4/15

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料につ

いてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。

以下資料のご紹介を致します。

## ——— ロータリー情報 ———

- ◎ 「ロータリー財団未来の夢計画」 田中作次 2010 3p (第38回ロータリー研究会報告書)
- ◎ 「RI 5カ年財政計画」 黒田正宏 2010 4p (第38回ロータリー研究会報告書)
- ◎ 「よきロータリアン 指導者としてのロータリアン」 渡辺好政 2010 14p (D.2710 月信)
- ◎ 「今 ロータリーが忘れていた事」 森 三郎 [1999] 16p  
(関西ロータリー研究会第55回例会記録)
- ◎ 「ロータリーの魅力と職業奉仕について」 成川守彦 2010 43p (D.2770職業奉仕研修会)
- ◎ 「私にとってのロータリーの楽しみ方 (パネルディスカッション)」  
岩本 忠 (コーディネーター) 2009 10p (D.2630地区大会)
- ◎ 「ロータリー簡単図解 <年表とロータリーの考えの変遷その1～3>」 鈴木章夫 2009 3p  
(D.2520月信)
- ◎ 「各クラブが行っている活性化アイデア一覧」 D.2720 2010 4p (D.2720 月信)

[上記申込先：ロータリー文庫 (コピー/PDF)]

## ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階

TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506

<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

## 〈お詫びと訂正〉

月信5月号3ページのGSE関連記事の中で、「米山梅吉氏がテキサス・ダラスRCのメンバー」とありますが、「福島喜三次氏がテキサス・ダラスRCのメンバー」です。お詫びして訂正いたします。

## 〈お知らせ〉

### 大阪南RC事務所移転

移転日：2010年5月27日 (木)

移転先：〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル 8階

TEL 06 (6647) 6236 FAX 06 (6647) 6237 (Eメールは変更ありません)



## 月信編集委員会からのおねがい

- ガバナー事務所への月信に関するご連絡は、FAXまたはE-Mailにてお願い致します。折り返し、できるだけ早くご連絡致します。
- 投稿は原稿（写真付きの場合は一緒に添えて）を掲載月の前々月20日までに、事務所必着でお送り下さい。原稿はなるべくパソコンでの作成をお願い致します。掲載の採否、字数の整理、並びに止むを得ない掲載月の変更等につきましては、月信編集委員会にご一任下さい。
- 物故会員のご連絡は、専用の用紙にてFAXをお願い致します。

○今年度の月信につきましては、各クラブ理事・役員・事務局・備品用に、各クラブの会員数に応じて部数を設定し、無料配布致します。また、ご希望の会員には有料（年間2,200円・1冊200円）配布とさせていただきますので、出来るだけ多くの方のお申し込みをお待ちしています。

**月信編集委員会**

・ガバナー	大谷	透
・地区代表幹事	四宮	孝郎
・地区副代表幹事	上田	直樹
・担当地区幹事	増田	國次
・担当地区幹事	池田	輝
・担当地区幹事	阿部	恭三
・事務局長	今井	貢二

## 2009～2010年度 国際ロータリー第2660地区 【ガバナー事務所ご案内】

### 事務局スタッフ

ガバナー	大谷	透
地区代表幹事	四宮	孝郎
地区副代表幹事	上田	直樹
事務局長	今井	貢二
事務局員	栗正	久美
	春名	志保
	大西	麻容

### 勤務時間

9：30～17：00

### 休日

土曜、日曜、祝日

夏 期 2010年 8月10日(火)～2010年 8月15日(日)

年末年始 2010年12月29日(水)～2011年 1月 4日(火)

ガバナー事務所に会議室を併設いたしております。  
最多 36名  
詳細はガバナー事務所までお問い合わせ下さい。

### 所在地・電話・ファックス

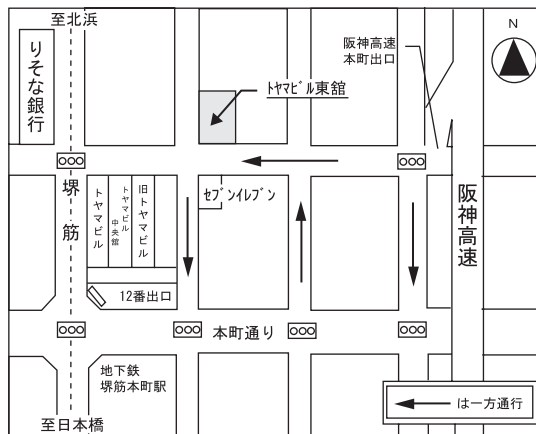
〒541-0052  
大阪市中央区安土町1-5-11  
トヤマビル東館 6階  
TEL:06-6264-2660  
FAX:06-6264-2661

### ホームページアドレス

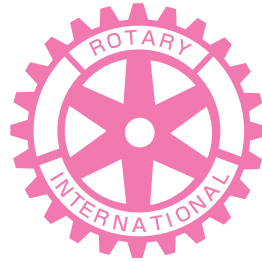
<http://www.ri2660.gr.jp/>

### メールアドレス

gov@ri2660.gr.jp



※地下鉄堺筋線 堺筋本町駅 12番出口すぐ



# ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2660

2009～2010  
GOVERNOR  
TORU OTANI

## THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

### 国際ロータリー第2660地区

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6F  
TEL:06-6264-2660 FAX:06-6264-2661 E-mail:gov@ri2660.gr.jp

---

### ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2660

6F, Toyama Bldg. East, 1-5-11, Azuchi-machi, Chuo-ku, Osaka 541-0052, JAPAN  
Phone:81-6-6264-2660 FAX:81-6-6264-2661 E-mail:gov@ri2660.gr.jp